

都城工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	0070	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	物質工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	新版四訂総合国語便覧（第一学習社）978-4-8040-3301-3、他にプリントを配付する。				
担当教員	吉岡 佑馬				
到達目標					
1. 自文化から異文化を眺める視点、および異文化から自文化を眺める視点を養い、異文化間で生じる諸問題を客観的に分析することができる。 2. また、1. について自己の考えを示すための論理的思考を養い、それを発揮することができる。 3. 近代化・国際化の中で日本人・日本社会の直面した問題について考察し、将来を展望する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 A	標準的な到達レベルの目安 B	未到達レベルの目安 C	(学生記入欄) 到達したレベルに○をすること。	
評価項目1	東アジア・西洋の言語表現・思想を理解し、それを基に自己の考えをまとめ、その内容を建設的に説明できる。	東アジア・西洋の言語表現・思想を理解し、それを基に自己の考えをまとめ、その内容を説明できる。	東アジア・西洋の言語表現・思想を理解し、それを基に自己の考えをまとめ、それについて説明しようと試みることができる。	A ・ B ・ C	
評価項目2	日本と中国・西洋の文化的差異を客観的に把握し、それについて建設的に説明できる。	日本と中国・西洋の文化的差異をある程度客観的に把握し、それについて説明できる。	日本と中国・西洋の文化的差異をある程度客観的に把握し、それについて説明しようと試みることができる。	A ・ B ・ C	
評価項目3	国際社会における日本、また自己の在り方を考察し、それについて論理的に説明できる。	国際社会における日本、また自己の在り方という問題の重要性を、ある程度は理解し説明できる。	国際社会における日本、また自己の在り方という問題の重要性を理解しようとし、それを説明しようと試みることができる。	A ・ B ・ C	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C JABEE f					
教育方法等					
概要	1、国際的視野をもって考え表現できる能力を拡充するため、古今東西さまざまな文章を読解し、それについて考察を加える。 2、日本人および日本社会の日本内外における在るべき将来像を模索するため、日本近代の文献を読解し、それについて考察を加える。 3、上記の目的に対応した自分の意見を論理的・建設的に表現できるように、指定された課題に取り組む。				
授業の進め方・方法	1、講義内容を把握するとともに復習に努め、また、試験に対応できるよう、著者や講義内容に関連する文献等に目を通すこと。 2、この講義は学修単位のため、課題作文を課す。そのための構想を十分に立ててから作文に臨むこと。 3、講義の時間以外にも、国際社会に対応すべく常識・教養を身につけ情報収集に努めること。				
注意点	1、課題の提出期限を守ること。 2、課題の達成のため、配付する参考文献を活用すること。また、授業で取り上げた文献以外の関連著作や情報をできるだけ収集すること。 3、国際文化の常識や関連語彙をも習得するよう留意すること。				
ポートフォリオ					

【授業計画の説明】 実施状況を記入してください。

(記入例) ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。

- ・前期中間試験まで：
- ・前期末試験まで：
- ・後期中間試験まで：
- ・学年末試験まで：

(記入例) ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。

- ・前期中間試験 点数： 総評：
- ・前期末試験 点数： 総評：
- ・後期中間試験 点数： 総評：
- ・学年末試験 点数： 総評：

・総合評価の点数： 総評：

【授業計画の説明】 実施状況を記入してください。

- ・前期中間試験まで：
- ・前期末試験まで：
- ・後期中間試験まで：
- ・学年末試験まで：

【評価の実施状況】 総合評価を出した後に記入してください。

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☒ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	---------------------------------	--	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 1. 中国思想を知る ①『儒教とは何か』	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明。加地伸行『儒教とは何か』を読み、古代中国に発生した儒教の特質を理解する。
		2週	1.-①『儒教とは何か』	同上。
		3週	1.-②『儒教 ルサンチマンの宗教』	浅野裕一『儒教 ルサンチマンの宗教』を読み、①とは異なる視点から儒教について理解を深める。
		4週	1.-②『儒教 ルサンチマンの宗教』	同上。
		5週	1.-③『論語』『孟子』etc.	中国古典（『論語』『孟子』etc.）に触れ、その思想や漢文の基礎知識を習得する。
		6週	1.-③『論語』『孟子』etc.	同上。
		7週	試験内容の確認	試験に向けて学習内容を振り返る。
		8週	前期中間試験	
	2ndQ	9週	試験答案の返却及び解説。 2.西洋哲学への問い ①『道徳を基礎づける 孟子vs.カント、ルソー、ニーチェ』	試験問題の解説及びポートフォリオの記入。 フランソワ・ジュリアン『道徳を基礎づける 孟子vs.カント、ルソー、ニーチェ』を読み、西洋哲学と中国哲学の差異について理解を深める。
		10週	2.-①『道徳を基礎づける 孟子vs.カント、ルソー、ニーチェ』	同上。
		11週	3.日本思想を知る『日本の思想』 ①	丸山真男『日本の思想』を読み、日本思想の特質について理解を深める。
		12週	3.-①『日本の思想』	3.-① 同上。
		13週	3.-①『菊と刀』	ルースベネディクト『菊と刀』を読み、海外から見た日本人の特質について理解を深める。
		14週	3.-①『菊と刀』	同上。
		15週	試験内容の確認	試験に向けて学習内容を振り返る。
		16週	前期末試験	（17前期末試験答案の返却・解説およびポートフォリオの記入
後期	3rdQ	1週	4.中国文化への誘い『「名」と「恥」の文化』	森三樹三郎『「名」と「恥」の文化』を読み、日本文化と中国文化の特質・差異について理解を深める。
		2週	4.-①『「名」と「恥」の文化』	同上。

		3週	4.―② 『科学——中国の試験地獄』	宮崎市定『科学——中国の試験地獄』を読み、昔の中国において行われていた「科学」の概要を理解し、その当時の学問について理解を深める。
		4週	4.―② 『科学——中国の試験地獄』	同上。
		5週	5. 日本文化への誘い ①『陰翳礼讃』	谷崎潤一郎『陰翳礼讃』を読み、日本人独自の美的価値観について理解を深める。
		6週	5.―① 『陰翳礼讃』	同上。
		7週	試験内容の確認	試験に向けて学習内容を振り返る。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	試験答案の返却及び解説。 6.中国思想を知る(2) ①『老子』 『莊子』	試験問題の解説及びポートフォリオの記入。『老子』『莊子』の世界観に触れ、古代中国の道家思想について理解を深める。
		10週	6.―①『老子』 『莊子』	同上。
		11週	7. 日本思想を知る(2) ①『葉隠入門』	三島由紀夫『葉隠入門』を読み、日本近世期の道德観・死生観について理解を深める。
		12週	7.―①『葉隠入門』	同上。
		13週	7.―②『文明論之概略』	福沢諭吉『文明論之概略』を読み、西洋文化に対する明治期の日本人の考え方を理解する。
		14週	7.―②『文明論之概略』	同上
		15週	試験内容の確認	試験に向けて学習内容を振り返る。
		16週	学年末試験	(17週目は試験答案の返却・解説及びポートフォリオの記入)

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	15	45
専門的能力	15	0	0	0	0	10	25
分野横断的能力	15	0	0	0	0	15	30